

棋譜診断シート

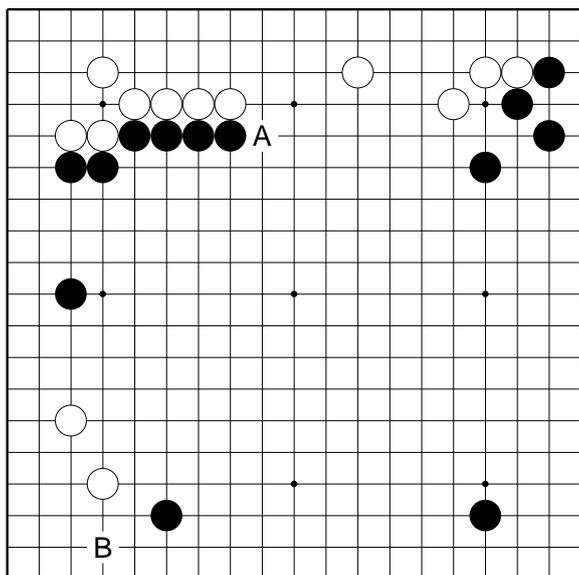
対局太郎様

診断日 2023年12月06日 診断棋士 矢代久美子

黒 対局太郎 — 白 碁敵二郎 (互先)

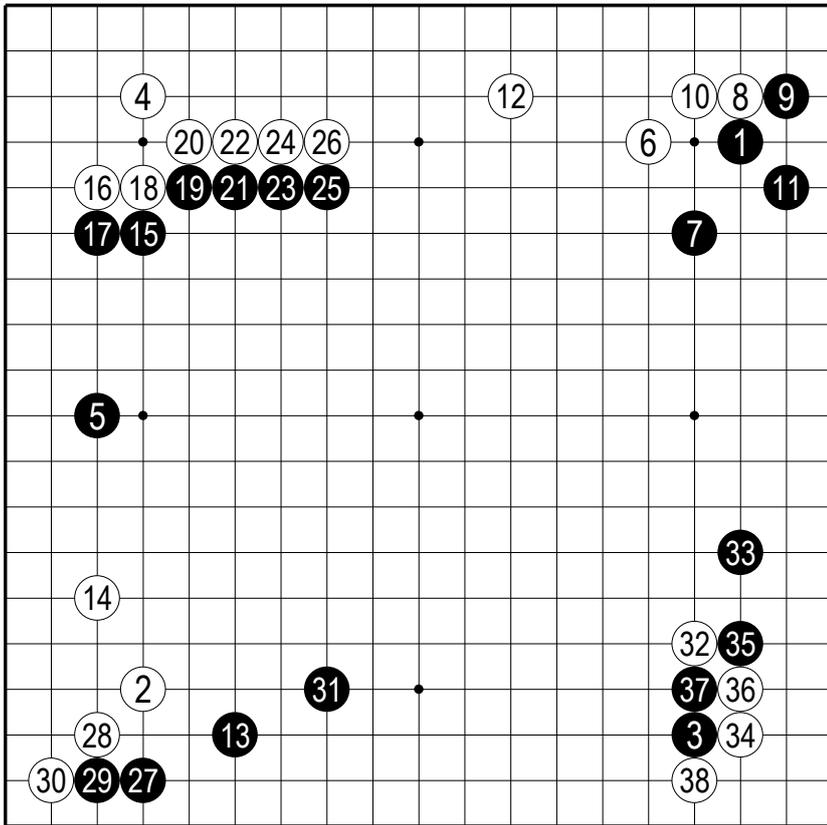
対局日 2023/11/12 150手完 白中押勝ち

- 黒の厚み対白の実利といった序盤戦。着手の一貫性がとてもよかったです
- 下図の局面で迷われたとのことですが、ここで悩むのは感覚がいい証拠です。
- ただし右下の定石形では、少し気前が良すぎたかもしれません。
- 中盤の大模様作戦からの大捕り物は圧巻でした。最後は投了が敗着だったと思います……。



Aのノビは自然な手。しかしここでBと下方に向かったのはいい判断でした。上辺の白はもう鉄壁です、碁盤全体を見渡すと下半分の空間が広いことがわかります。広いところから打つことが布石のセオリーですよ。





黒 5 のワリウチは少し珍しく、カカリやシマリを優先すれば普通ですが、実戦が悪いということはありません。右上での定石選択や黒 15 の二間高ガカリなど、一貫性を感じます。

黒 19 のハネに白は切る手もあったと思いますが、実戦は穏やか。ただ白 26 では他方を急ぐのもありました。上辺は白が固い形。黒 27 でノビずに手抜きした判断は、大正解だと思います！

戦場は下方にうつり、黒 31 の構えに白 32 は盤上最大のカカリ。ここでの定石選択は悩みます。黒 33 も自分の石を意識したとてもいい感覚。

白 34 のツケに対し、黒 35 は珍しい対応【参考図 1, 2】。ただし疑問手とまではいきません。

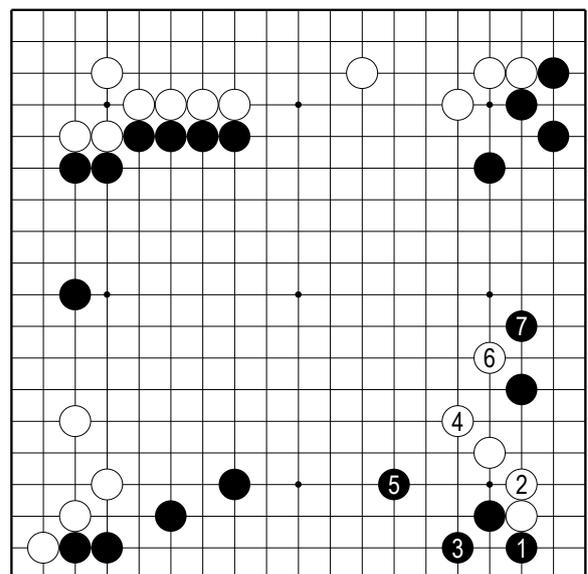
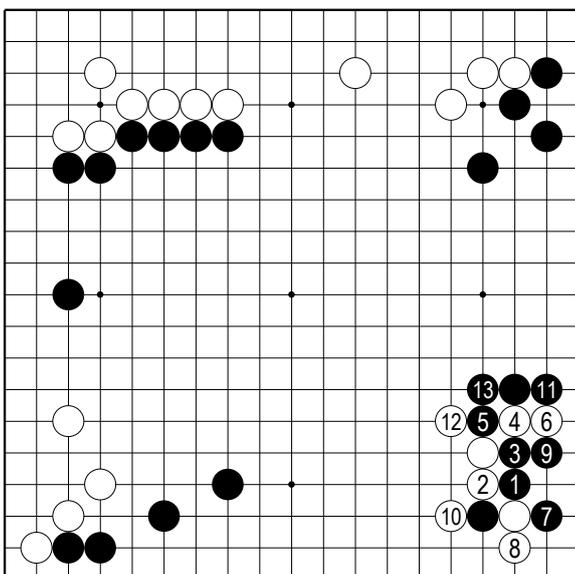
白 38 のハネにどう対処するか。

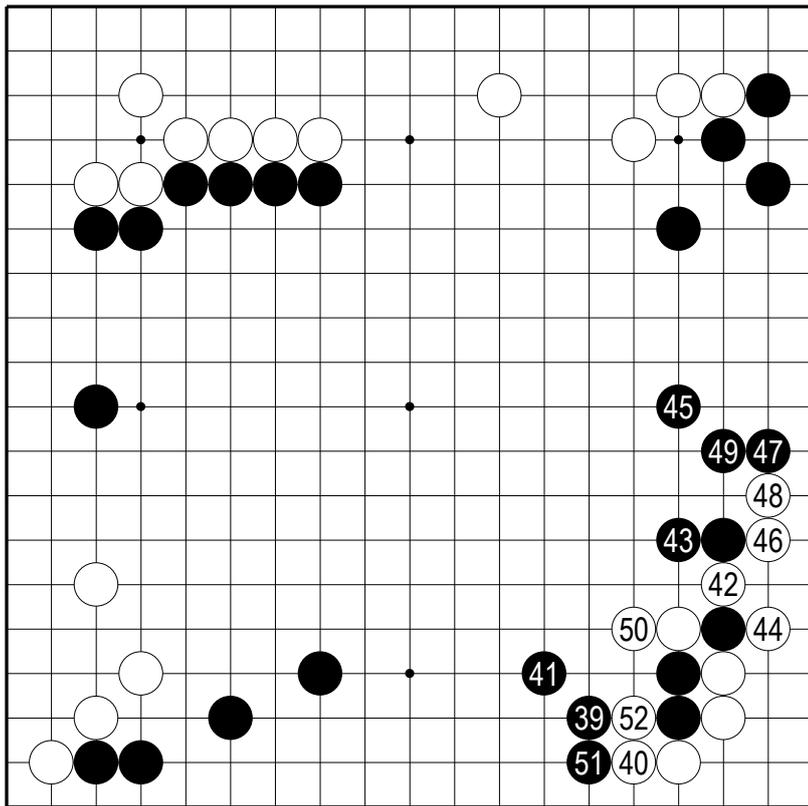
【参考図 1】

白三々のツケに対し、黒 1 とハネ出すのがよく見る形。実戦の形は少し定石外れとされています。図は一例ですが、黒 13 まで右辺はものすごく厚い形。ただし白も下辺で治まり、お互いに不満のない進行です。

【参考図 2】

黒 1 と下からハネる手もあり、こちらは黒 5, 7 と両方頑張ってしまおう、という作戦。配石を生かしてこれも選んでみたくなる図です。ほかにも色々な定石がありますが、とりあえずこのあたりから使ってみてください！





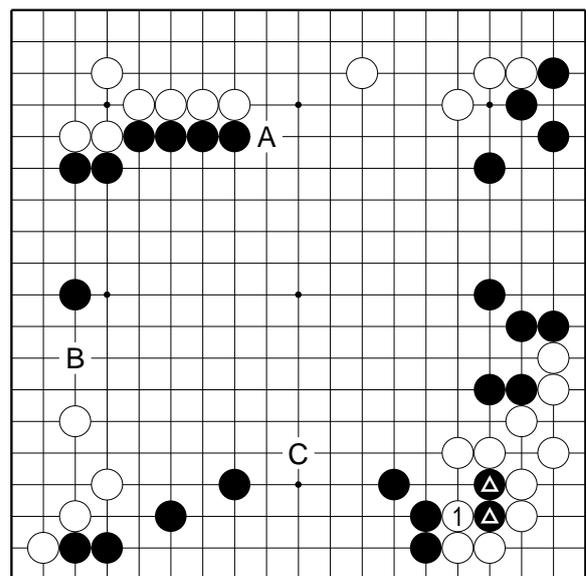
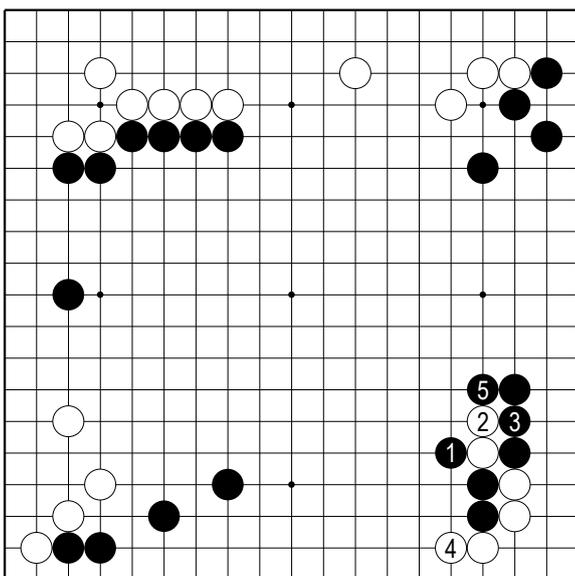
黒 39 は中央を意識した受けですが、スキありでした。【参考図 3】
 白 50 のノビが利くと白 42 から一子を取られてしまう、というのがこの形のポイント。ですので白 40 は逸機、黒 41 で一路右のタケフならその手段を防いでいました。
 白 42 から一子を取れては白の不満がないワカレです。
 その後黒が 43、45 と構えたのは冷静な打ち方。
 白 46 から黒 49 までの進行は、白地が増えたものの黒も厚くなったので相場でしょうか。
 白 50 と頭を出したとき、黒 51 は目いっぱい困った頑張った手。
 ここで白 52 と取ったのが、かなり時期尚早な一着でした。【参考図 4】

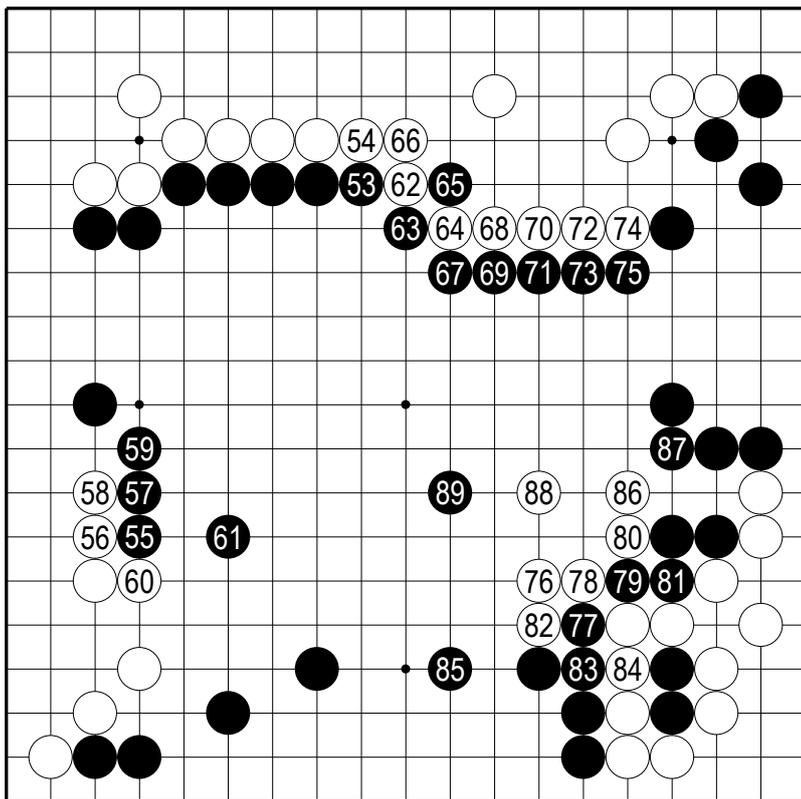
【参考図 3】

ここでは黒 1 とアテてから黒 3 とツナぐのが形で、おすすめ。オサえられては窮屈なので白 4 とノビ切るくらいですが、黒 5 とシチョウに取れます。この形、実のところ黒が甘いらしいのですが、細かいことは気にしないで大丈夫。全局的な厚みで一局打ってみてください。

【参考図 4】

白 1 と取っても△の二子を取っただけで、4 目しか増えていません(厳密に言うとヨセが違うのでもう少し価値はありますが)。ここでは A のハネ、B のツメ、C の消しなど好点がよりどりみどりで、どれを選択しても白 1 よりはかなりお得でした。





黒 53 を決め、黒 55 のカタツキで中央を大切にした構想が素晴らしかったです。また、白 62 のハネに対し黒 63 から一直線に行ったのもとてもいい手。白地も増えはしましたが、中央黒のスケールのほうが断然大きい。このあたりで黒にムードが出てきました。

白 76 に来たとき、黒 77 は迫力満点。ただこの切り方より【参考図 5】が勝りました。

実戦は白 80 や 82 が利き、結構眼形が厚そう。白 84 で【参考図 6】のコースを選ばれていたら持て余していたかもしれません。

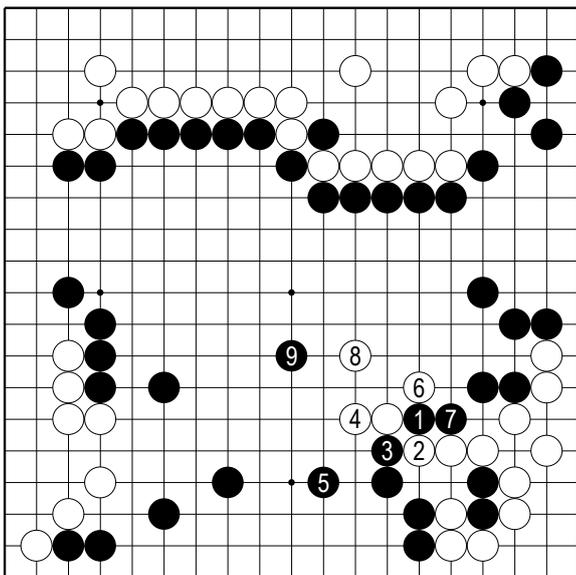
本局では白、この二子にこだわりすぎた印象です。

白 86, 88 と好形に構えましたが黒 89 と迫ったのも好手。

今のところ白一眼しかありません。

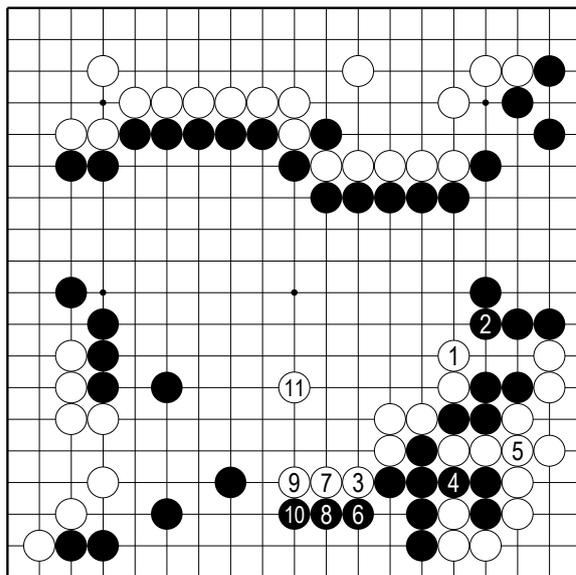
【参考図 5】

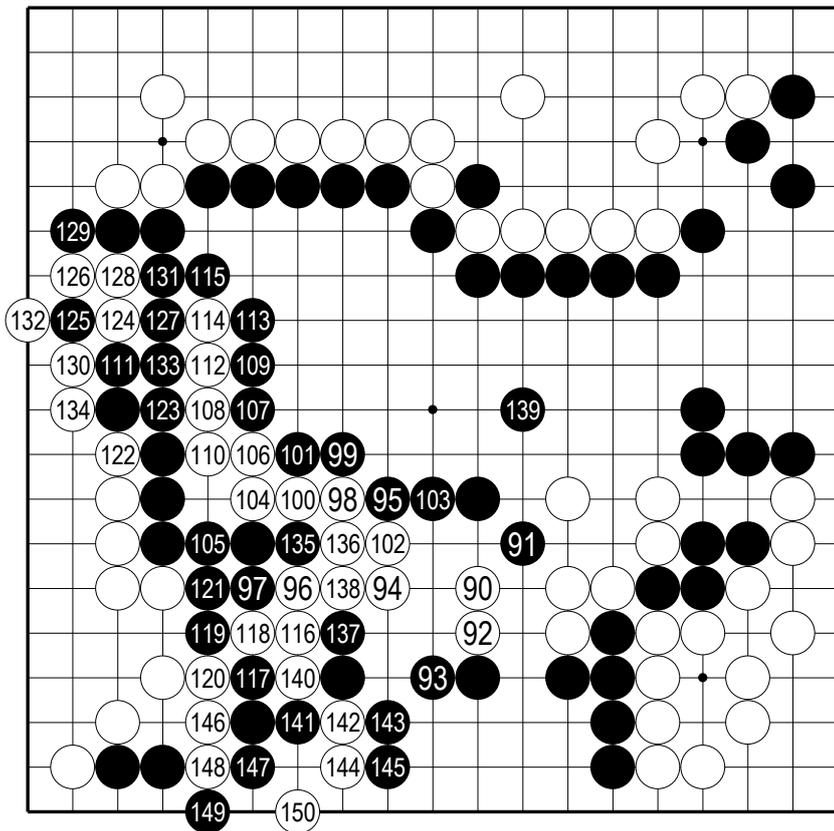
ケイマを切断するときはツケコシが手筋、と教わりましたがこの場合もそうでした。実戦の切断法よりだいぶ下辺黒の石にゆとりがあります。



【参考図 6】

白 84 では白 1 を決め、白 3 とハネから決めて行くのが簡明でした。黒 4 と先手で二子を助けられるのが悔しかったのかもしれませんが、それよりも中央の安否が重要。白 11 まで、この図ならゆったりとスペースを確保され、黒も後続手段が難しかったと思います。





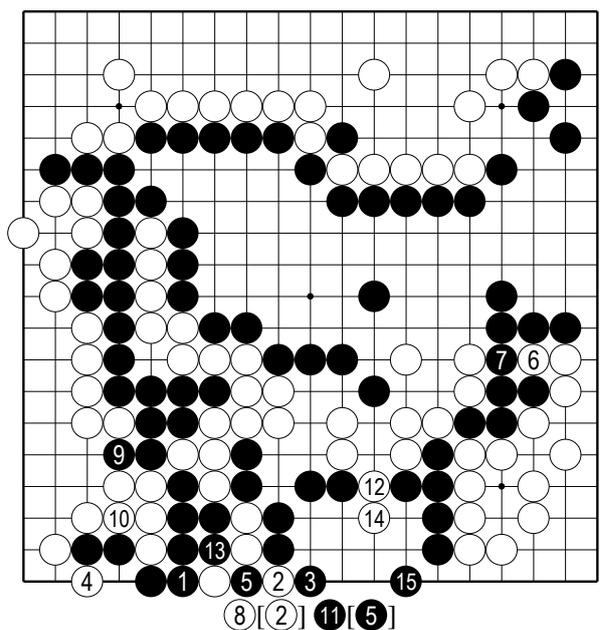
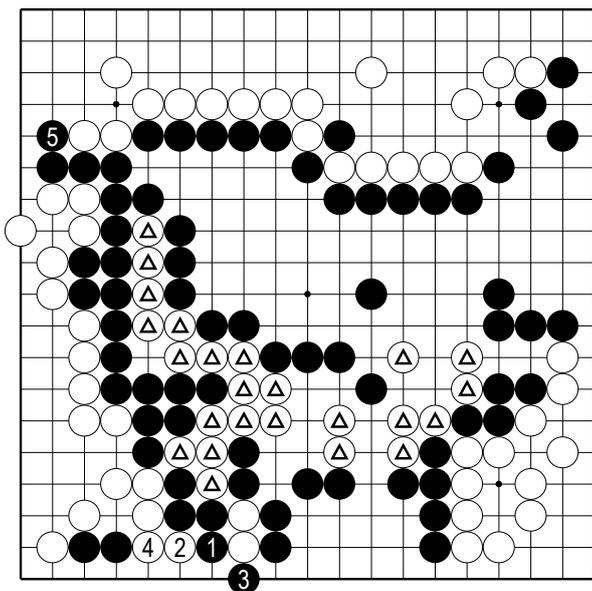
この譜では黒の取りかけが的確を極めました。たえず石が急所に行き、白に眼形のスペースを与えません。白 124 から 126 は勝負手ですが、黒 127 からの対処が冷静。黒 131 としっかり連絡し、盤石になりました。なつたはずなのですが…。白 140 からのデギリが最後の勝負所。実戦はここで全部助けに行つたため、白 150 で怪しいことに。黒 147 で【参考図 7】を選んでいれば問題ありませんでした。最終手白 150 は鋭い手筋ですが、諦めることはなかったと思います。【参考図 8】変化が多く、簡単に黒勝ちとは言えませんがまだまだ難しい局面。仕上げで失敗しましたが、全体としては名局だったと思います。この調子でこれからも頑張ってください！

【参考図 7】

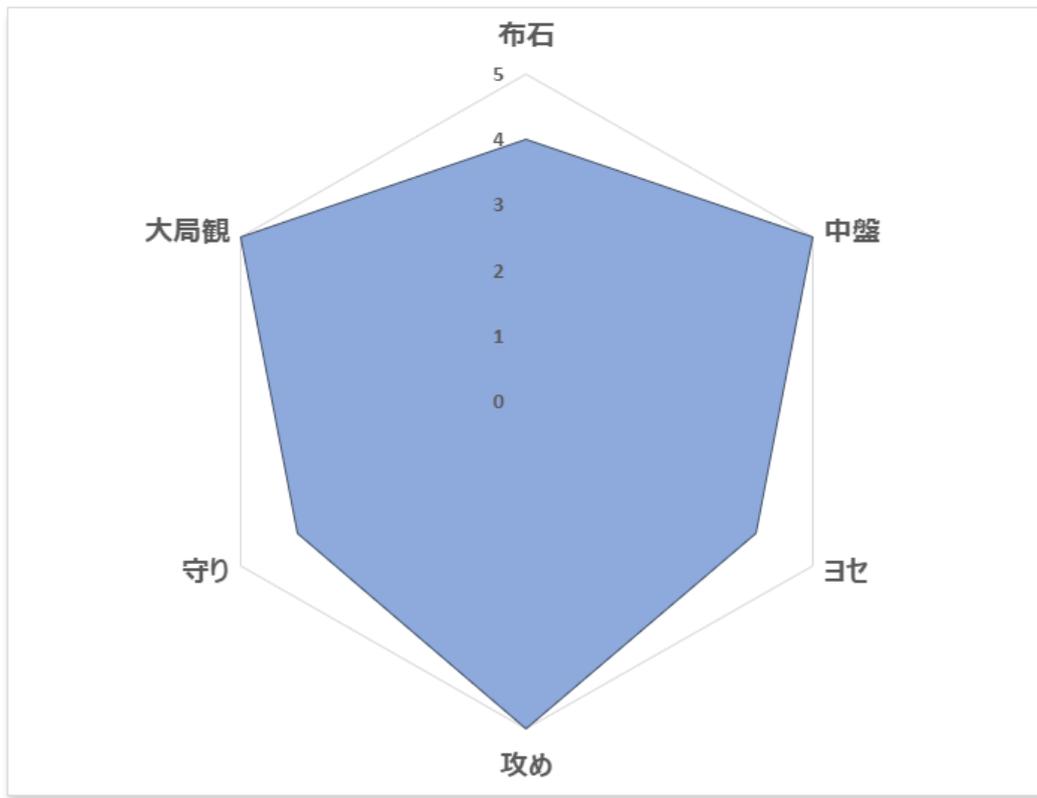
あっさりとして黒 1 で二子を制し、黒 5 の大きなマゲに向かえば大差で黒リードでした。△の一団は大きすぎます。実戦でも攻め合いがいけそう、と判断されたのかと思いますが、味が悪い受け方になってしまいましたね。

【参考図 8】

白 150 がいい手で動揺したのかもしれませんが、投了まですることはありませんでした。黒 1 とツギ、ここで白 4 なら黒 2 とサガって一手勝ち。白は 2 とハネてコウを目指しますがヨセコウ。白コウ材が足りず、白 12 は利きそつで利きません。



対局様の診断チャート



- 布石 4 おおらかで雰囲気の出た打ち方。ただし右下の定石形では損をしました。
- 中盤 5 中央を囲った作戦が素晴らしく、のちの取りかけでは白をノックアウト寸前に。
- ヨセ 4 投了が敗着。下辺はまだコウでしたので、続きを見てみたかったです。
- 攻め 5 中央の大石を仕留めてしまうとは恐ろしいパワーです。
- 守り 4 仕上げの段階でミスが出て残念。
- 大局観 5 上辺を一気に押しきった発想が素晴らしかったです。

【総評】

再序盤の石組みから一貫性があり、碁盤全体を見極める力を感じました。特に上辺の打ち方はAIを彷彿させる打ち回りで、実際に推奨手の連続でした。素晴らしい大局観です。

少し疑問を感じたのは右下隅のみ。タネ石を取られ、白が安泰になってしまいました。しかしこのあたりももしかすると、対局様のプランニングに沿った進行だったのかもしれませんが。些事にこだわらず、結果として盤上の大所をおさえてしまいました。

後半の攻めも圧巻。しっかり眼形を奪い、白にスペースを与えませんでした。必死の抵抗も難なく処理し、大石を見事打ち取ったのは鮮やかすぎます。最後はなぜか白の逆転勝利となりましたが、あまりにもたくさんの石を仕留めたため、仏心が出たのでは？ と邪推してしまいます。

大局観もあって力も強く、あまりアドバイスすることもないのですが、強いて言えば甘くなる傾向があるかもしれません。運が悪いと地合のリードで逃げ切られてしまう、という負けパターンがありそう。ですので、負けた碁を反省して定石プランを見直したりすると、上達の手助けになるかもしれません。

今回は診断依頼ありがとうございました。またのご依頼をお待ちしています！